

石塚源太 + 西條茜 by ARTCOURT Gallery
Genta Ishizuka and Akane Saijo by ARTCOURT Gallery



【参考作品 (左より)】

石塚源太《感触の表裏 #25》2021

漆、発泡スチロール球、2wayトリコット 乾漆技法 | 72x98x52 cm

西條茜《コキユ-Cocquille-》2019

陶 | 65x35x20 cm

(撮影いづれも: 来田猛)

漆と陶、それぞれの素材技法のうえに、自身の身体感覚を重ねあわせた造形表現で注目を集める作家、石塚源太(b.1982)と西條茜(b.1989)の新作展をCADAN有楽町にて開催します。両者はともに京都を拠点に活動し、2019年には金沢で開催された世界工芸トリエンナーレの企画展「越境する工芸」に出品、また数々の賞を受賞するなど、工芸と現代美術をクロスオーバーする新鋭として、今後の展開にさらなる期待が寄せられています。

緩やかな曲面フォルムにみずみずしい質感をまとう二人の作品は、その表面から内部への意識を誘い込みます。内側からランダムに膨張する凹凸のかたち、穴の奥へと続く空洞のゆくえ、素地に映り込む陰影の重なり、身体と内部共鳴し空間に轟く音など、素材とそこから喚起されるイメージを二人はそれぞれの作品に落とし込みながら制作しています。石塚は漆という素材を起点に現象と思考を重ね合わせ、西條は陶の構造プロセスへの批評をポジティブに物語化することで、さまざまな感触で表面と内部、作品と空間を一つに繋ぎ、造形を媒介に生まれる人と人、人とモノとの新たな関係性に大きな関心を寄せています。

本展では、ミステリアスに人々を引き寄せる二人の作品世界を身体になぞらえ、「皮膜と内臓」をキーワードに新作の数々をご紹介します。私たちの日常や身体とも照らし合わせながら、また五感で味わうように、作品との対話をお楽しみください。

【石塚源太】 伝統的な漆芸を用いた抽象造形により、漆の「皮膜」を境に行き交う意識や感覚を探索しています。《感触の表裏》のシリーズは、伸縮性の布に球体の発泡スチロールを詰め、凹凸が連なる三次曲面を乾漆技法で仕上げ、漆に宿るつやを発露させた作品です。また、長い歴史をもつ漆素材と信仰の関係性にも関心を寄せ、知覚を超えて人々の無意識や想像にはたらきかける「皮膜」存在の可能性にも着目し続けています。本展では「皮膜とその隔たり」をテーマに、半立体の大型作品をはじめ、内部の質感を表面に露出させた新展開の作品も発表します。

【西條茜】 表面のリアリティに対し内部は空洞であるという、陶造形の構造プロセスに虚構性を見出し、史実や私的体験に基づき作品世界を物語的に構築しています。有機的な形はしばしば西條自身の身体からトレースされており、また創世記のごとく土で造形した後穴から中へと息を吹込み、空洞から音に形を与える作品へと内外を繋ぐ意識を発展させながら、ユニット「TÔBOE」としてパフォーマンス活動も行なっています。本展では、身体と内部共鳴し音を鳴らすことができる体内器官のような造形を配置し、自と他の境界線が曖昧になる瞬間を作り出します。

【展覧会概要】

展覧会タイトル：石塚源太 + 西條茜 by ARTCOURT Gallery

会期：2021年9月29日 [水] - 10月17日 [日]

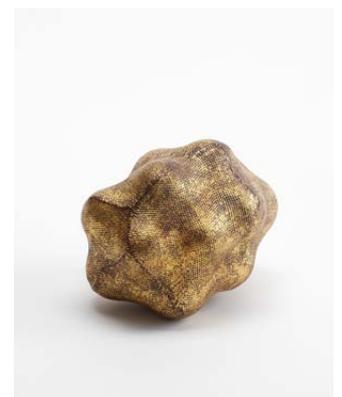
会場：CADAN有楽町 (東京都千代田区有楽町1-10-1 有楽町ビル1F)
 cadan.org/cadan-yurakucho

開場時間：火～金 11:00-19:00 / 土日 11:00--17:00

定休日：月

◆ トークイベント：10月17日 [日] ※開催時間など詳細はウェブサイトにてご案内します。

◆ 作家在廊予定日：9月29日 [水]、10月17日 [日]



石塚源太《Untitled》2021
 漆、金箔、麻布、発泡スチロール球、2wayトリコット 乾漆技法
 10.3x13x9.5 cm | 撮影: 来田猛

【お問い合わせ】アートコートギャラリー [担当: 大場] ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問い合わせ下さい。

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449 E-mail:info@artcourtgallery.com www.artcourtgallery.com

石塚源太 + 西條茜 by ARTCOURT Gallery

Genta Ishizuka and Akane Saijo by ARTCOURT Gallery



石塚源太

1982 京都府生まれ
 2006 ロイヤル・カレッジ・オブ・アート(RCA, ロンドン) 交換留学
 2008 京都市立芸術大学大学院 美術研究科修士課程 工芸専攻漆工 修了
 2019 京都市芸術新人賞 受賞

| 主な個展 |

2019 「多相皮膜」アートコートギャラリー、大阪 [11]
 2018 「Membrane」Erskine, Hall & Coe, ロンドン、イギリス
 2017 「相手考」アーツスペース虹、京都 [15, '13, '10, '09, '07]

| グループ展 |

2021 「根の力」大阪日本民藝館、大阪
 2020 「Small works and great artist」Erskine, Hall & Coe, ロンドン、イギリス
 2019 「越境する工芸」金沢21世紀美術館、石川
 「LOEWE FOUNDATION Craft Prize 2019」<グランプリ> 草月会館、東京
 「ACG Villa Kyoto Vol.002 袴田京太郎 x 石塚源太」ACG Villa Kyoto、京都
 2018 「現代漆芸」金沢市立安江金箔工芸館、石川
 2017 「HARD BODIES」ミネアポリス美術館、アメリカ
 「オープンシアター2017」KAAT神奈川芸術劇場、神奈川
 2016 「リフレクション」岐阜県現代陶芸美術館、岐阜
 「美の予感 2016-啓蟄-」高島屋美術画廊(日本橋/大阪/京都/新宿/名古屋/横浜 巡回)
 2015 「オノミチ・ランデブー」尾道市立美術館、広島
 「琳派400年記念 新鋭選抜展」京都文化博物館、京都 [14]
 2014 「現代美術工芸の新しい地平 Part I 漆と陶-素材を超えて」渋谷ヒカリエ8/CUBE 1,2,3、東京
 2011 「VOCA展2011」上野の森美術館、東京
 2008 「アートコートフロンティア#6」アートコートギャラリー、大阪

| パブリックコレクション |

ミネアポリス美術館 (アメリカ)、ヴィクトリア&アルバート博物館 (イギリス)、京都市美術館 (京都)



【参考作品】石塚源太《感触の表裏(壁面) #3》2021
 漆、麻布 乾漆技法 | 137x98x52 cm | 撮影: 来田猛



西條茜

1989 兵庫県生まれ
 2013 ロイヤル・カレッジ・オブ・アート(RCA, ロンドン) 交換留学
 2014 京都市立芸術大学大学院 美術研究科修士課程 工芸専攻陶磁器分野 修了
 2020 京都市芸術文化特別奨励者

| 主な個展 |

2021 「胎内茶会」京都市営地下鉄醍醐車庫、京都
 2019 「タブーの室礼」ワコールスタディホール、京都
 2018 「Grotta/胎内の孤独」同時代ギャラリー、京都
 2017 「Folly」アーツスペース虹、京都 [15]

| グループ展 |

2021 「Lost in Translation」京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、京都)*TOBOEとして参加
 「闇をまなざし、光にふれる」アートコートギャラリー、大阪
 2020 「以美為用展<陶芸>~明日へのとびらII~」高島屋、京都
 2019 「越境する工芸」金沢21世紀美術館、石川
 「Kyoto Art for Tomorrow-京都府新鋭選抜展2019」京都文化博物館、京都 [17]
 2018 「ニューミュージーション-変・進・深化」京都芸術センター、京都
 2017 「Ascending Art Annual Vol.1すがたかたち-「らしさ」とわたしの想像力-」スパイラル、東京
 「Test Case XI」European Ceramic Workcenter、オランダ
 2016 「六甲ミーツアート芸術散歩2016」<彫刻の森美術館賞> 六甲山牧場、兵庫

| レジデンス |

2019 Le Maupas A.I.R. (フランス)
 2017 European Ceramic Work Centre (オランダ)

| 主なコレクション |

京都銀行
 新建築社

【参考作品】西條茜《Dry-wet line #2》2021
 釉薬 | 22x38x43 cm | 撮影: 来田猛